新潟県中学校体育連盟

軟式野球専門部

指導者必携

2026（R8）

P 1～P 2　最重要確認事項
P 3～P 8　新潟県中学校体育連盟軟式野球専門部　特別規程
「新潟県大会規程」
「競技上の注意・確認事項および用具・装具規程（抜粋）」
「応援に関する確認事項」
「選手を応援される皆様へ」
P 9～P12　用具・装具規程　及び　運用規程
P13　オーダー交換マニュアル
P14～P16　プレーバックミーティング
P17～P18　参考資料（過去の通達文書内容抜粋）
P19～P22　ベーシックマナー

軟式野球専門部「指導者必携」
平成１８年１２月　　初版発行

始めよう！楽しもう！続けよう！

野球を通じた友情の育成と
スポーツ障がいの予防に取り組む
"21c型穂波プロジェクト"始動!
ニイガタほなみ

「いいプレーには
自然と拍手がわく
グラウンドっていいよね
敵味方なく、ね！」

NYBOC
Niigata Youth Baseball Organization Council
新潟県青少年野球団体協議会

NYBOCは新潟メソッドを推奨しています

新潟県中体連軟式野球専門部　兼　新潟市野球連盟少年部

R8年度　最重要確認事項

1　「新潟メソッド」の精神に基づいた取組の確実な遂行

各チームの指導者は内容を熟読し、その内容に沿って選手及び保護者への啓発活動を推進する。
「新潟メソッド」の推進は、新潟県野球界共通の約束であることを自覚して指導にあたる。
【具体的実践事項】

①「繋がろう　未来へつなぐ　想いはひとつ」（ＮＹＢＯＣ　R8 キャッチフレーズ）

・各郡市・地域で縦と横のつながりを深め、加盟他団体と連携して「育成・普及」に向けた取組を実施する。

②『マニュアルに沿った「オーダー交換」』と、『プレーバックミーティング』の遂行。

・プレーバックミーティングは少年部主催県大会で（地区大会でも可能な限り）実施する。

オーダー交換時に、公認野球規則・競技者必携・新潟メソッドを持参すること。

③投手の投球数の把握　（子どもの骨格や関節の特徴の理解と正しい投球動作・ケアの指導）

・未来ある子どもたちが、「投球障がい」なく、生涯にわたって野球を楽しむことができるよう、日ごろから自チーム選手の投球数について指導者が責任をもって把握する。

別紙　【野球手帳・メソッド案内（保護者宛）と（代表者宛て）】参照

2　「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」（令和７年１２月文部科学省発出）に基づいた地域クラブ活動の運営

・学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、地域全体で支えることにより新たな価値を創造する。
・部活動改革の理念やスポーツの役割や意義を踏まえて、地域の実情等に応じた適切な形態等で実施する。

別紙　【部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン】参照

3　新潟県中体連主催大会及び新潟県野球連盟主催大会において、全日本野球連盟規程を採用する。ただし、下記□内を除く。

スパイクのチーム内（指導者も含めて）での甲被カラーは、白または黒の一色とし、チーム内での混在を認める。

【令和８年度から変更となる具体例】

県内の中体連主催大会においてＤＨ制を採用する。

・競技者必携記載の通り、引き続き二刀流選手を採用しない。

※上記は新潟県限定の特別規程であり、中体連主催の北信越大会、全国大会では適用されない。

4　新潟県中体連主催大会（予選会含む）限定の特別規程（Ｒ４改訂より継続）

※本規程は中体連主催の北信越大会と全国大会、野球連盟主催のすべての大会では適用されない。ただし、大会スケジュールの消化が危ぶまれる場合はこの限りではない。

〇降雨、日没等による特別継続試合の適用について

7回未終了の全ての試合に特別継続試合を適用する。

・５回終了以降は、野球規則上は試合成立となるが、中体連主催県総体およびその予選会を兼ねた地区大会に限り、正規の試合終了（タイブレーク方式を含む）まで特別継続試合を適用する。
・特別継続試合は、翌日の第１試合に先立って実施される。原則として、翌日の日程は予定されていた試合の前に特別継続試合が追加される。翌日に特別継続試合のみを行い、翌日に予定されていた試合を翌々日に順延する場合もある。気象状況やグラウンド状況により変更もある。

5　県代表出場大会について（Ｒ８年度）

第四北越銀行旗
１位：北信越ブロック予選（富山県）
※全日本少年大会（神奈川県）に出場が確定したチームは、中体連の北信越競技会及び全国大会には出場できない。

県　総　体
１、２位：北信越競技会（富山県）
３位(２チーム)：中部日本大会（愛知県）もしくは、東日本大会（茨城県）
※辞退チームがあった場合の繰り上げ出場の優先順は以下の通りとする。
（全日本少年大会（神奈川県）に出場するチームが、県総体でも上位大会の出場権を得た場合の繰り上げ出場についても同様とする）
①県総体の成績　②第四北越銀行旗県大会の成績
③オンヨネカップの成績　④同列チームによる抽選
※県総体出場チームは上記大会への参加の意思を事前に大会本部に伝える。(管理職、生徒・保護者へ説明し、了承を事前に得ておくこと)

オンヨネカップ
１位：春季全日本少年（岡山県）と関東東北北信越新人大会（栃木県）
２位：おおたスポーツ学校 Championship
３位：ベースボールマガジン（BBM）杯
※出場権を放棄した場合は、繰り上げ出場とする。
BBM 杯は３位のチームの他、ベスト８進出チームによる希望抽選とし、出場枠が満たされない場合は、ベスト 16 チームから希望抽選とする。
※オンヨネカップ出場チームは上記大会への参加の意思を事前に大会本部に伝える。(管理職、生徒・保護者へ説明し、了承を事前に得ておくこと)

注：抽選はチーム責任者が行うことを原則とするが、不在時は代理抽選とする。

6　2026 年以降の大会運営に係る変更点について

項目	内容	導入時期
少年部における敬称略について	試合中の選手アナウンスは、全て敬称略とする。 ※「くん」・「さん」の廃止。	2026 年(令和８年)から導入
サイドノックの実施について（外野手についてのみ抜粋）	**シートノックの有無にかかわらず、…以下の条件で認める。 一塁または三塁後方のファールテリトリー（アンツーカ：土の部分）から、安全な方向に向けてノックを行うこと。**	2026 年(令和８年)から導入
試合時間の見直し	健康面を考慮し、試合時間を 2 時間とする。 ※ 旧）2 時間 30 分 ⇒ 新)**2 時間**	**2027 年（令和 9 年）から**導入
バットの使用制限	選手の安全面を考慮し、**バット外表面にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止**	**2029 年（令和 11 年）から**導入 2028 年シーズン終了までは移行期間

7　大会参加時における役員協力について

・２０２６年シーズンより、大会における運営委員を各チームから選出し、大会時の運営に協力する。運営委員は各チーム２名とし、年度始めのチーム調査（Google フォーム）にて報告する。大会毎に、各チームへ１名または２名の協力要請が示される。

新潟県中学校体育連盟軟式野球専門部　特別規程

「新潟県中体連大会特別規程」、「競技上の注意・確認事項および用具・装具規程」をまとめたものを、「新潟県中学校体育連盟軟式野球専門部　特別規程」とする。

ここに記載のない内容は、公認野球規則ならびに（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携による。

新潟県大会規程

「全国中学校軟式野球大会」および「北信越総合競技大会軟式野球競技会」に、本大会運営に関わる特別規則や申し合わせ事項を設けたものを『新潟県大会規程』とする。以下「本大会規程」と記す。

大会特別規程

1. 暗黒、降雨などで7回終了以前に中止になった場合、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。（タイブレーク方式の場合も同様とする）大会運営上やむを得ない場合は5回を過ぎ正式試合になった場合は特別継続試合を行わない。この場合は試合開始前に事前に両チームに通知する。

2. 大会運営上、やむを得ない場合は抽選で勝敗を決する。抽選方法は(公財)全日本軟式野球連盟規程による。

3. 前の試合が終了した後、準備ができ次第、次の試合を開始する。天候によってはかなり早めて試合を開始する場合もある。

4. 申込後の選手の変更、追加及び背番号の移動は、定められた期日までとし、監督会議で確認を得ること。

5. 決勝戦の打順表の交換及び攻守決定は、決勝戦試合開始時刻の 20 分前とする。試合開始時刻の決定は、準決勝第2試合終了時に大会本部で決定し連絡する。

【競技を行うにあたって】

新潟県青少年野球団体協議会（以下 NYBOC と記載）が推奨する「新潟メソッド」の趣旨を指導者、選手、保護者全員で尊重し大会に参加する。

1．天候・酷暑等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、時間を遅らせて試合を行ったりする場合もある。（試合の中断は大会本部と審判部で協議し決定する。雷等危険を伴う場合は、球審・本部の判断で試合を中断する場合もある）

2．試合会場の施設状況により、会場特別ルールを適用することもある。

※詳細は大会本部で決定し事前通知するとともに、代表者会議または試合開始前に両チームに確認を行う。

3．用具装具については、試合前に審判員又は競技役員の点検に応じなければならない。

4．試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合は、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。

【試合開始前】

5．監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で対応措置を協議し決定する。

6．打順表の交換及び攻守決定は、第１試合は試合開始40分前、第２試合以降は前試合の４回終了時とする。但し、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、その都度本部で決　定し連絡する。監督・主将は打順表用紙５部を持参し、「オーダー交換マニュアル」に沿って競技役員・担当審判員と打合せを行う。（その後、応援代表者への確認の会を実施する）

7．試合前の球場練習については、登録人員（選手・監督・コーチ）およびシートノック補助員３名のみとする。

(1) ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。

(2) 球場内ではトスバッティングまでとし、ハーフ打撃、フリー打撃は禁止とする。

(3) 球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第１試合チームは打順表の交換まではチームで統一されたＴシャツも可とする。（※アンダーシャツのみは禁止）

(4) グラウンドに出る際は、必ず着帽する。

8．シートノックについては、以下の通りとする。

(1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わる場合はこの限りではない。

(2) 時間は５分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。

(3) 後攻チームが先に行う。

(4) 選手・監督・コーチの他に３名の補助員（ユニフォーム着用：選手と同一が望ましいが、準備できない場合は練習着でも可）をつけて行うことができる。

(5) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。

(6) マウンドの使用は認めない。

(7) ダートサークル内に留まる人は、ヘルメットの着用を義務付ける。

9．ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動等をすることは認める。

【試合中】

10. 選手交代の申し出は監督が行う。監督は球審に背番号・氏名を告げ、選手は背番号を球審に見せる。

11. ベンチ内でのメガホンは１個とし、その使用は監督に限る。また、ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）携帯マイクの使用を禁止する。ただし、電子スコアは記録用としてのみ、１台の使用を認める。

12. コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。

13. 選手以外はコーチスボックスに入ることはできない。

14. 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り７球以内（１分を限度）が許される。次回からは３球以内とする。

15. ブルペンでの投球練習、交代選手のキャッチボールなど必要以外の選手はベンチから出ない。交代選手のグラウンド内でのウォームアップは、ブルペンで２組（４名以内）としキャッチボールのみ認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球等禁止）ただし、攻守交代時に限り、ファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認める。

16. ４回終了時とタイブレーク方式開始前にクーリングブレイク（給水タイム）とグラウンド整備（３分程度）を行う。ただし、熱中症の危険性がある場合は、１試合につき２回（３回、５回終了時）ないし３回（２回、４回、６回終了時）のクーリングブレイク（給水タイム）を行う場合がある。

17. 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。

18. 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。

19. ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「18」と同じ行為であれば回数に数える。

20. 危険防止のため、次のことを徹底する。

(1) バットリング・鉄棒・マスコットバット等、試合に使用しないバット類を球場内に持ち込むことを禁止する。

(2) 試合中のグラウンドでは、打席に入る打者と次打者席内の者以外は素振りをしてはいけない。

21. テーピングをする場合、露出する部分については、肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

競技上の注意・確認事項および用具・装具規程（抜粋）

1．選手の頭髪・身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。

2．試合開始前の挨拶（礼）は、両チームが同時に行うこと。また、審判員も同時に挨拶（礼）を行うので改めて審判員等への礼は行わない。（すべてを含めて全員が一斉に行う）

3．試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。

(1) 無用なタイムをとることを慎む。

(2) 打者席に入るときの挨拶はヘルメットをとらない。打席内でサインを見る。

(3) 先頭打者と次打者、ベースコーチは、攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。

(4) 出塁した際は、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中にいれておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。

4．ユニフォームの着用にあたって次の点を注意する。

(1) 見苦しくないように着用する。

① 上着の裾を出さないのはもちろん、たるませずベルトが見えるように着る。

② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。

③ 肩の部分をたくし上げない。

④ ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。

(2) ストッキングについて次の通りとする。

① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。

② ハイカットストッキングは禁止する。

(3) （生徒）スコアラーの服装は、選手と同じユニフォーム又は在籍中学校の制服とする。

5. ユニフォーム以外の用具等について

(1) ヘルメットは、SG マークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。ただし、合同チームは各チーム内でそろっていれば良い。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。

(2) 捕手の装具は、SG マークと連盟公認のマークのついたものを使用する。マスクでスロートガード一体型のものは、スロートガードをつける必要はない。予備捕手を含め、ファールカップを必ず着用する。

(3) 野球用の手袋を打者、走者、投手以外の守備に使用できる。県内の大会において色の制限はない。

(4) 滑り止めスプレーの使用を禁止する。

6. 監督・コーチの服装については、次の通りとする。

⑴ 監督・コーチは、選手と同じユニフォームを着用する。靴は、白または黒の一色とし、チーム内での混在を認める。

⑵ 監督は30番、コーチは29番、28番を付ける。

⑶ グラウンドに出ないコーチの服装は、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は、それに準ずる服装とする。

7. 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

8. 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援団への挨拶は認める。

9. 熱中症対策を目的とした保護者のベンチ入りについて

⑴ オーダー交換時に申し出た上で、２名まで認める。

⑵ IDを着用し、選手の健康管理に努める。

⑶ 服装に関する制限はないが、中学生の大会にふさわしい身なりを求める。

⑷ 熱中症対策としてベンチ入りするのであって、作戦に関する事やその他の業務は行わない。
※特に電子機器（特に携帯電話）の使用がないように注意する。

～熱中症予防の観点から～

※ クーリングブレーク（給水タイム）はすべての選手が日陰に入り、休息をとること。また、指導者は選手および応援団の健康状況の確認を行うこと。

※クーリングブレーク（給水タイム）は１試合につき２回（３回、５回終了時）ないし３回（２回、４回、６回終了時）設定する場合がある。

※ スタンドにテントを設置することを許可する。その場合は、ベンチより外野側に設置することとし、プレーに影響のない色のものとする。白、銀等のボールが見えにくくなったり、反射したりする色は避ける。
（その他、球場外の指定された場所以外へのテントの設営は禁止）

〈応援に関する確認事項〉

望ましい応援と応援者の健康管理のため、各チームで応援に関する以下の内容の指導を徹底する。
また、応援団を管理する責任者を決め、応援に関する確認事項の徹底と応援者の健康管理を行う。

1．相手チームを尊重した応援を行い、競技者がそれまでの練習の成果を発揮するのにふさわしい舞台づくりに協力するものとする。

2．応援団の最終責任者は監督とする。試合中の応援団に関する指導は、大会本部から監督に行うので、監督が応援団への指導を行う。（監督から応援責任者等を通じて指導してもよい）なお、状況によっては、大会本部が直接、応援団に指示・指導を行う場合もあるが、その場合は応援責任者に伝え、試合終了後に内容を監督に伝えることもある。

3．応援団は次のことを守って応援する。

⑴ 応援はあくまでも自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいだくような言動は禁止する。

⑵ 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃時のみの応援とする。自チームが守備側の時は座っていることが望ましい。球場及び球場周辺の環境により「鳴り物」を禁止する場合があるので大会本部に確認する。

⑶ 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。

⑷ 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。

⑸ 試合を妨害するような応援はしない。（審判がタイムを宣告した時や大会主催者からの連絡時等を含む）
また、試合審判や大会本部が試合進行に影響があると判断した場合、鳴り物を禁止する場合がある。

⑹ メガホンを使用してもよい。

⑺ 笛（ホイッスル）およびペットボトルの使用を禁止する。投手が投球動作に入ると同時に、突然鳴り物を鳴らすなどの応援や歓声は禁止する。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に鳴り物で盛り上げることのないようにする。

⑻ 拡声器や音響機器の使用は禁止する。

⑼ まとまった応援は自チームベンチより外野側とする。ただし会場により不可能な場合は、大会本部の指示した場所で行う。

4.会場の使用にあたっては、大会実行委員会の指示に従う。

⑴ 自家用車、バスで来場の際は決められた駐車場を使用する。

⑵ 飲酒は禁止する。

⑶ 喫煙については指定の場所に限定し、生徒（子ども）の目に触れないようにする。

選手を応援される皆様へ

選手にとって思い出深い最高の舞台とするために・・・

〇相手を尊重した　〇積極的で　〇スピーディーな

野球の実践に　応援団の皆様もご協力ください

野球場に敵はいません。野球を愛し、同じ志をもった仲間と、それを支えてくれる人たちがいるだけです。大会に関わるすべての人が気持ちよく、そして安全に大会に参加できるよう、以下の点にご協力をお願いいたします。

〇素晴らしいプレーには敵味方を問わず賞賛の拍手をお願いします。

〇プレーや采配、審判の判定を否定、批判する野次は厳禁です。

〇グラウンド内・ベンチ・ロッカールームには立ち入らないでください。
水分や氷の補充等はベンチ入りが認められた人が行ってください。

〇選手を近くに呼んでの声掛けはコーチング（助力）を疑われます。慎んでください。
スタンドから選手と会話をするようなことがないようにお願いします。

〇笛（ホイッスル）およびペットボトルの使用を禁止しています。

〇投手が投球動作に入ると同時に突然鳴り物を鳴らすなどの応援や声援は禁止です。

〇四死球やワイルドピッチ、パスボールなどの時に鳴り物で盛り上げることのないようにしてください。

〇まとまった応援は自チームベンチより外野側で行ってください。

〇ゴミは会場にあるごみ箱に捨てず、必ず持ち帰ってください。

〇選手はもちろん、観戦者の皆さんも熱中症には気を付け、こまめな水分補給と休憩を心がけてください。自分だけでなく、周りの方へも気配りをお願いします。
もしも具合が悪くなった方がいた場合はすぐに本部へお知らせください。
特に救急車を要請した場合は必ずお知らせください。

〇大会の写真や動画を SNS へ投稿することは厳禁です。
撮影場所についても運営の妨げとならないように配慮をお願いします。

新潟県中体連軟式野球専門部・新潟県野球連盟少年部

新潟県中学校体育連盟
軟式野球専門部

用具・装具規程　及び　運用規程

平成１２年	「用具規程」制定
平成１３年、１４年、１６年、１７年	一部改正
平成１８年	「用具･装具規程及び運用規程」に改称
平成２０年	改正
平成２３年、２４年、２５年	一部改正
平成２８年	改正
平成３１年	改正
令和　２年	改正
令和　６年、７年、８年	一部改正

【基本方針】（規程の目的）

１．公正公平に競技する。
２．用具による差異を無くし、平等な条件で競技する。
３．安全面を考慮し、危険防止に努める。
４．各チームや個人の経費負担が過大にならないようにする。
５．学生野球（義務教育の一環）であることから、華美にならないようにする。
６．高校野球への円滑な移行を図る。

【本規程の適用について】

１．本規程は、毎年開催される県中体連軟式野球専門部会で、追加、削除及び変更等を決定し、速やかに全中学校・地域クラブ活動に配布確認をする。
２．適用に際して安全面に関することは、可能な限り早期に各種大会において適用することを原則とする。ただし、費用面での負担が大きい場合は年次的に適用する。
３．本規程はその趣旨から、可能な限り県内の全大会において適用することが望ましい。本連盟以外の主催大会では、主催者と協議し適用有無について確認する。
４．本規程は内規として、競技部内の共通理解事項として位置付ける。

【補　則】

１．本規程に対する問い合わせは、県専門部員を通して行う。
２．本規程に記載されていない事項については、公認野球規則ならびに（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携に従う。
３．指導者は本規程の主旨を理解し、公平性と教育的側面を考え指導にあたる。

1．ボール

（1）使用するボールは（公財）全日本軟式野球連盟公認球M号とする。

2．バット　日本中体連軟式野球部　用具・装具使用制限に則る

バットは公認野球規則で規程定められているもののほか、次のものとする。

（1）　一本の木材で作った木製バットであることのほか、竹片、木片などの接合バットであること。木製については公認制度を適用しない。

（2）　金属・ハイコン（複合）バットは、J・S・B・Bマークのついた全日本野球連盟公認の「一般用」と表示のあるものとする。バットの握りの部分については、グリップテープが切れているものや明らかに止まっていないものは使用できない。

（3）くぼみや亀裂の認められるものは使用できない。また、金属製バットのヘッドキャップや金属疲労、木製バットのひび割れなどを確認し大会に持参する。

3．ユニフォーム

（1）同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形、同意匠のユニフォームを着用する。コーチでグラウンドに出ない者は、平服（ポロシャツ、スラックス、帽子）を認める。女性の場合はこれに準ずる服装とする。

（2）選手のユニフォームには、定められた大きさの背番号をつける。

（3）帽子、アンダーシャツ、ベルト、ストッキング、シューズもユニフォームの一部である。

（4）ユニフォームの上着に個人名はつけない。

（5）ノースリーブの上着は認めない。

（6）ロングタイプ（裾を極端に絞った変形ズボン）やすそ幅の広いストレートタイプのパンツ、ベルトレスパンツは使用できない。（練習試合や全ての大会時に適用する）

（7）ストッキングはアーチ形以外も認められるようになったが、危険防止のためアンダーソックスと重ねて履くことを厳守する。また、ハイカットストッキングは使用できない。

（8）学生野球であることからも、華美なものや高価なものは控える。
（切りかえしやラインの制限は特に設けない）

（9）県代表として上位大会に出場する場合は、左袖に都道府県名を必ず表示する。県内の大会では特に定めない。**（全軟連規程は左袖に県名以外は何も付けてはいけない）**

(10) 監督・コーチは、選手と同色のスパイク（アップシューズも可）を履くこと。

(11) アンダーシャツの首まわりの形状や袖の長さは定めないが、左右の袖の長さが違うものは使用できない。

(12) 背番号については以下の通りとする。（中体連北信越大会と全中ではこの限りではない）

①監督は背番号30番をつける。コーチでユニフォームを着用する場合は29、28番をつける。

②主将の背番号は10番とする。（中体連北信越大会と全中ではこの限りではない）

③選手は0～99番のうち、①②を除いて登録する。

④中体連主催以外の大会では、それぞれの大会規程に従う。

(13) 光沢のある素材のベルトは使用しない。（カラー制限なし）

4．スパイク　日本中体連軟式野球部　用具・装具使用制限に則る

（1）ハイカットやミドルカットについての使用制限はない。
（2）色はブラックまたはホワイト一色(ブラックの場合、エナメル及び光沢のある素材は使用できない)とし、審判、指導者についても選手と同様とする。
（3）ワンポイントの商標は同色とみなす。
（4）金具はポイント式を使用してもよい。

5．グラブ　公認野球規則及び指導者必携に則る

（1）野手に関する制限はなし。
（2）投手については以下の通り。
本体カラー：受・背・ウェブは２色まで可。白／グレー／PANTONEの色基準14番より薄い色は不可。
ハミダシ、ヘリ革、紐、縫い糸、指掛け：制限なし。
刺繍：色、大きさともに制限なし。

6．ヘルメット

（1）打者、次打者、走者はＳＧマークのついた連盟公認の両側にイヤーフラップのあるヘルメットを着帽する。
（2）チーム名、ロゴ、頭文字イニシャルの表示を認める。番号については後頭部または側頭部への表示を認める。
（3）ボールパーソン、ノッカーにボールを手渡す選手、または野手からの送球をノッカー付近で捕球する選手及び外野手からの送球を補助する選手（中継者）はいずれもヘルメットを着用する。
（4）バットパーソン、ベースコーチも危険防止のためにヘルメットを着用する。
（5）亀裂のあるものや内側の保護パットがついていないものやパッドが固定されていないものは使用できない。
（6）チームとして、色やデザインは同一のものを着用する。ただし、合同チームはその限りではない。

7．捕手の装具

（1）マスクは連盟公認(SGマークとJSBBマークがついている… **R7年度から完全実施**)のものを使用し、必ずスロートガードを装着する。ただし、スロートガード一体型のマスクを使用する際はスロートガードを装着しなくてもよい。
（2）連盟公認のレガーズおよびプロテクター、ＳＧマークのついた捕手用のヘルメットを着用する。
（3）膝痛軽減用パッドの使用を認める。ただし、色は黒または紺一色とする。
（4）レガーズおよびヘルメットに亀裂や破損のあるものは使用できない。
（5）投球練習時の装具も（1）、（2）の規程に準ずる。（ブルペンも同様）
（6）急所（ファウル）カップを使用する。
※控え捕手も危険防止の観点から使用する。

8．手袋、リストバンド　公認野球規則に則る

（1）野球用の手袋で打者、走者、投手以外の守備に使用できる。

（2）リストバンドは使用できない。

〈補足〉

〇走者時に手袋を外す場合は、自分のポケットにしまうこととし、ランナーコーチに渡すことはしない。

〇出塁時に走者用の手袋につけかえることは、試合進行の妨げになるので認めない。

9．サングラス　新潟県独自

（1）選手・指導者ともにサングラスの使用を認める。

（2）投手以外のミラーレンズの使用を認める。

（3）サングラスを帽子の庇の上にのせることを認める。

上記は新潟県内の大会において、本部への申し出は必要ない。

10. その他の用具

（1）レッグガード、エルボーガードは原則として使用しない。事情があり使用を希望する場合は、オーダー交換時に大会本部に申し出て許可を得る。（使用者が使用物をもって同行する）

（2）スプレーの使用は手袋の摩耗が激しく、打者が優位になることがあるので禁止する。

（3）マスコットバット、鉄棒およびバットリングの球場内への持ち込みを禁止する。

（4）テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

（5）熱中症対策として、ネッククーラーの着用は許可する。

《オーダー交換》マニュアル

・両チームより打順表を提出してもらい、氏名、背番号の確認を行う。
・テーピングを使用する選手がいるか確認。相手チーム、球審に伝達。
・２試合目のチームに、投手の投球数を確認する。［記録・広報］

【競技運営】

［相互に礼］
おはようございます。（第２試合以降は適宜あいさつ）
これから、本日の試合に際しての諸注意と攻守の決定を行います。
【自己紹介】
本日〇〇球場の競技進行を務めます〇〇です。よろしくお願いします。
続いて、【チーム名】のキャプテン、監督は自己紹介をしてください。
（例）〇〇地区代表、〇〇市立〇〇中学校の〇〇です。
よろしくお願いします。（キャプテン）
監督の〇〇です。よろしくお願いします。（監督）

【競技運営】

それでは、攻守の決定を行います。
キャプテンは、ジャンケンをしてください。
※ジャンケンは「最初はグー、ジャンケンポン」（かけ声は競技運営）
※あいこの場合は、再度「最初はグー、ジャンケンポン」
先攻【チーム名】、後攻【チーム名】。（オーダー表に記入）
後攻の【チーム名】よりシートノックを行います。
シートノック時に、ノックをしていないチームの用具点検を行います。用具の準備をお願いします。

この後、本部にて応援に関する確認を行いたいと思いますので、応援責任者を１名お願いします。

【審判】

本日の第〇試合を担当する球審の〇〇です。よろしくお願いします。
「試合を行うにあたり、心がけてほしいことがあります。」
（以下、球審に委ねる）

【競技運営】

プレーバックミーティングに関する連絡を行う。
以上で終了します。〇〇時〇〇分よりシートノックを行います。各チーム準備に入ってください。

※応援に関する指導は、「新潟県中学校体育連盟軟式野球専門部指導者必携」ならびに「新潟メソッド」をもとに実施し、「選手を応援される皆様へ」を責任者へ渡す。

『プレーバック・ミーティング』運用マニュアル

１　目的

①　試合を通じて得た学びや課題を両チームで共有し、次の成長につなげる。

②　他チームの良い点を認め合い、今後の練習や試合に活かす。

③　新潟メソッドの精神に基づいたフェアプレーの理解を深める。

④　活動を通して、チームの競技力向上につなげる。

２　概要

①対象

各チームの主将・副主将（１～２名）

②所要時間

試合終了後１５分程度

③進行役（コーディネーター：以下「ＣＯ」）

育成競技部、大会役員（１～２名）

④会場

会議室、本部裏など集まりやすい場所、机・イスに着席、対話形式で実施

⑤実施する大会と試合

オンヨネ地区予選代表決定戦、オンヨネ県大会、第四北銀地区予選代表決定戦、第四北銀県大会（可能な範囲で）

３　事前準備

内容	担当	備考
会場（会議室・本部裏など）確保	大会運営役員	試合終了後すぐ移動できる場所
机・椅子の配置	大会運営役員	なるべく対話形式の配置にする
振り返りシート準備	ＣＯ	発言を可視化するため
新潟メソッド、競技者規則必携など	ＣＯ	ルールやメソッド内容を確認するため

４　流れ（進行原稿）

①　0:00～0:01　開会・趣旨説明・参加者自己紹介

「これからプレーバック・ミーティングを始めます。私はコーディネーターを務める○○です。この会は、自チームや相手チームの良かったところ、フェアプレーの場面などを振り返ります。チームの代表として感じたことを積極的に話し、今後の財産になるようにしましょう。それでは、各チームの代表者は自己紹介をお願いします。（参加者に自己紹介をさせる）」

②　0:01～0:12　試合の振り返り

「まずは、今日の試合を振り返ってみましょう。」　※ＣＯはシートに記入しながら進める。

（A） 自チームの良かったプレー、印象に残った場面、大変だった場面など

- ＣＯ：「自分やチームがうまくいった場面はありましたか？」
- 指名方式または挙手で発言させる。
  （例）「投球のリズムが良く守備が安定した」「走塁の判断が良く点を取れた」など

（B） 相手チームから学んだこと

- ＣＯ：「相手チームでこれは真似したいと思ったプレーはありましたか？」
  → 相手チームの良いプレーを共有（例）「常に声を出していた」「ミスしても励ましていた」
  →　「なるほど、○○チームはポジショニングを指示する声が常に出ていましたね」など補足

（C） COが印象に残ったことや勝敗のポイントになったことを意見交流（議論）させる

- ＣＯは事前にあげておく。できれば、（A）（B）で出た意見から拾い上げたい。
  →（例）「６回の走塁で流れが変わり決勝点が入りました。この走塁はどう思いますか」
  →「もし、違う状況や作戦だったらどうなってましたか」など議論を深めるための提案もあり。

（D） 新潟メソッドの精神に基づいたフェアプレー場面の共有

- ＣＯ：「フェアプレーだと感じた行動はありましたか？」
  例）「相手のナイスプレーを称えた」「ミスしても励まし合っていた」
- ※運営やマナー面での改善点があれば、ＣＯから指摘する。

③　0:12～0:14　②今後の目標共有

「今日の試合の反省を踏まえ、今後どんなチームにしていきたいですか？」

→ 各キャプテンが順に発言（１人　３０秒～１分）

④　0:14～0:15　まとめ・閉会

「それではお疲れさまでした。（ＣＯから一言感想を述べる）。今日の学びをチームに持ち帰って、次の目標に向けて頑張ってください。」

５　コーディネーターの心得

① 全員が発言できるようにバランスをとる。

② 選手の言葉を引き出すことを重視する。プレーヤーズセンタードの視点で。

③ 意見が出にくい場合は、具体的な質問で促す。

④ 批判的な意見は「次に活かせる視点」に変換する。

⑤ 試合をよく観戦して、意見交流のもとになる点をあらかじめ出しておく。

６　その他

① 勝ち上がりで１日２試合ある場合は、３試合目（決勝戦）のみ行う。

② （D）の内容やマナー面での改善点の指摘はプレーバックミーティングができない時も行う。この場合は、以前のように監督だけに伝えてもよい。

③ 振り返りシートは、Ａ３横サイズで、下敷きとペンを付け、大会役員セットに常備する。

④ 振り返りシートは、可能であれば両チームの監督に写し等を渡す。写しが作成できない場合、希望がある監督に写真を撮ってもらう。

資料　過去通達抜粋

○全国中学校野球大会（中体連主催）との全日本少年野球大会（全日本軟式野球連盟主催）の出場に関すること

「両全国大会への同一登録選手の出場を認めない。」中体連軟式野球競技専門部と全日本軟式野球連盟との協議により、平成１９年度から、それぞれの主催する大会要項に上記の趣旨を明記することが確認された。これを受け、中体連北信越ブロックでは、「全軟ブロック代表校は、中体連主催の北信越大会に出場をしない。」ことが確認された。

理由

①　両主催団体は、それぞれの全国大会の日程を決定する際に、必ず開催会期が重複しなように設定することは困難である。

②　両大会の会期の一部が重なった場合に、一方の大会を辞退することは、大会の名誉や辞退したチームに敗退したチームのことを考慮すると、望ましいことではない。

③　真夏の暑い時期の遠征と連戦は、生徒の健康管理上望ましくない。

④　両大会に参加する場合の経費の負担が膨大である。

⑤　より多くの生徒に全国大会という場を経験させることは、広く野球の発展に寄与する。

⑥　過去、両大会に出場したチームが一方の大会での戦い方が「真剣ではない」というような疑惑をもたれる要因になった。

補足

・全国大会の開催は、中学生は年１回という昭和５４年の通達を受け、中体連主催大会を学校対抗の全国大会として位置付け、全日本少年野球大会はクラブチームの大会として位置付けられてきた。

・同一校（部員数の多い学校で）最初から２チーム体制で、それぞれの予選から出場し、監督やコーチが違う場合は、同一校から結果的に２チーム出場することになった場合は、両全国大会に出場することは可能であるが・・・。

新潟県の対応

・全軟（通称：横浜大会）大会登録をする時点で、以下のことを前提として登録する。

全軟北信越大会で優勝した場合は、中体連主催大会の北信越大会への出場権を辞退する。新潟県総体までの郡市大会・地区大会は、県チャンピオンを決定する大会であるという位置付けと、教育的配慮からその出場を認める。全軟北信越ブロック代表チームが、中体連県総体で北信越大会出場権を得た場合は、次順位のチームが出場権を得る。

補足

・２月末の登録時点で、出場登録をしたチームは上記内容を承認したことになる。
登録後の変更は認めない。ただし、最初の予選の申込み締め切り日前に申し出た場合は、全軟予選への出場を辞退することを認める。

○選手のマナーに関すること

以前の全国中学校大会の他競技で、相手への威圧行為であり平等な競技運営に支障が出るということで、マナーや身だしなみの悪い選手の出場が禁止されることがあった。また、全国高等学校野球連盟でも、頭髪の着色や脱色、剃り込み、まゆ毛を剃る、抜くなど不自然な形状にすることを禁止する方向で「各校の校則を遵守する」ことの通達がなされた。その後の状況は改善され、大きく問題になることはなかったが、マナーや身だしなみに関する指導が不十分なチームが散見されるようになってきた。この実態から、県中体連軟式野球専門部では以下の通達を行う。この通達は、引退した３年生にも指導する。これは中高連携の意味からも高野連とも協議した結果である。

１　頭髪の脱色や着色を認めない。
２　頭髪の剃りこみを認めない。
３　まゆ毛を剃ったり、抜いたり不自然な形状の加工を認めない。（一般的に理髪店でのまゆ毛の生え際を揃える程度のことは含まない）

理由

・威圧行為として捉え、平等な条件でお互いに気持ちよくプレーできる状況を作る。
・学校教育の一環としての活動、大会であることからもその人格形成を担う責務がある。
※判断基準を明記することは難しいが、各大会開催責任専門部が判断することとする。

○　大会運営に関すること他（平成 18 年度全国軟式野球会議での確認事項）

・自チームが守備に付く際、ベンチ内の控え選手が球場内に出て声をかける等の行為は、ベンチラインから２m以内の範囲とする。（プレー進行を早める）
・ネクストバッターズサークルには必ず次打者が入る。（投手や捕手の場合も別選手は認めない）
・各地区大会から、表彰式等の式典参加態度をしっかりと指導する。

○　ファウルカップ（急所カップ）の装着について

・H25 年度より、全ての大会において着用を義務付ける。装着しない場合は捕手として試合に出場できない。控え捕手も着用を原則とする。

○　試合開始時、終了時の挨拶について

・双方が同時に行うこと。

○　複合バットの使用制限について

・バット外表面にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を 2029 年より禁止する。（2028 年シーズン終了までは移行期間とする。）

参考にしてください

ベーシックマナー〔中学校編〕

整地について

〇整地の方法

・とんぼ（木製レーキの通称）で押しただけでは整地とはいえません。レーキ（鉄製やアルミ製）で表面下のでこぼこをかき崩してから、表面をとんぼで馴らすのが正しい整地です。しかし、とんぼしかないのが多くのグラウンドの実情です。そんな時は、引く時に姿勢を低くして、土をかき取り押しながら平らに土を戻す方法が良いです。試合前のシートノックの後に、並んですぐに回り始める姿をよく見ますが、良くない方法です。内野全体に散らばって、特にイレギュラーして困る定位置の前とベース付近を念入りに整地します。そして、全体がほぼ平らになった時点で、並んで回ります。その際、押した土で「山」ができないよう注意します。時間があれば、各ベースを結んだ線の内側全部を終了した後、内野と外野の間も同様に回ります。そして、ブラシがあれば最後にブラシをかけることでベストな状態の整地が完了します。

・チーム内では予算も関係もありますが、とんぼ（木製レーキ）は１０本以上備えるようにしたいものです。また、鉄製レーキは、農業用アメリカンレーキが値段や大きさも手頃で、多くの場面での活用できます。

〇試合会場で

・その日の最後の試合終了後は、特に念入りに行います。フェア地域だけをして終わるのではなく、ファウルグラウンドを含めて「土」の部分は全て行います。ファウルグラウンドは「押し」だけでもいいですが、上から押し付けるようにして整地します。特に忘れがちなのがブルペンの整地です。一般的な礼儀として、球場等でその日の最後にベンチを使用したチームは、ベンチ内の清掃も行います。ただし、バス時間や遠征等で帰る時間に制限があれば球場主任などに丁寧にお断りするのが礼儀です。また、補助役員の仕事であると考えるのはよくありません。大会等でもできる範囲で協力することが大切です。大会はボランティアで運営されています。そして学生野球として教育の一環として行われているからです。

〇雨の降った後、早く乾かせたい！

・水を吸い取ったのち、ぬかるんでいない所を足場にして、レーキ（アメリカンレーキ）で、細かい溝を切ります。そして完全に乾く前に、とんぼで馴らし溝を平らにします。ただし、そのグラウンドの状況を一番よく知っている人の意見を優先します。各自が勝手な判断でグラウンドに入ることはしません。

〇いつ整地をするようにすればいいの？

・はりきって互いのチームで整地用具を取り合っている姿を見ますが、決して悪いことではありませんが、効率良く行うために以下を参考にしてください。練習試合では事前に確認しておくようにします。大会では 1 会場に 4 チームが集まることが多いですが以下はその場合です。

〇大会における整地の割当の一例

〔試合開始前〕

第 1 試合の両チームでグラウンド作りを行います。ベンチ入り選手はアップを優先しますが双方とも人数が少なければ、時間を決めて全員で取組みます。

〔第 1 試合シートノック後〕

第 2 試合のチームが行います。

〔第 1 試合終了後〕

第 2 試合のシートノック終了後に、第 1 試合のチームが行います。

〔第 2 試合終了後〕

連続して試合のあるチームは整地から除き、敗戦したチームが整地を行います。そのかわりに第 3 試合終了後は、第 3 試合を行った両チームで整地と後始末を行います。また、昼食をとる時間が限られているチームを整地から外すようにお互いに配慮します。

試合開始前

〇会場に到着したら

・大会本部や練習試合のホームチームの担当者に挨拶に行きます。アップ場所や時間、トイレ、駐車場所などを確認し、会場準備をしてくれていることに感謝の意を表します。

・グラウンドに選手が整列し、挨拶するのは基本的にグラウンドに対する「礼」であり、相手に対する挨拶とは意味が違います。特に悪いことではありませんが、複数チームが集まる場合に、その都度アップや準備を止めて、挨拶することは高校ではあまり行っていません。相手には試合開始前と試合終了後にしっかりと挨拶をすることで十分です。応援団も試合開始の挨拶を一緒に行う、エール交換を行うなどの方が望ましい姿です。

・グラウンド内は移動を含めて、駆け足（荷物がある場合は早足）が原則です。

〇アップ時～ベンチ入り

・服装は全員が同じものが原則です。アップ用のシャツ等でも良いですが、その場合は攻守決定時にはユニホームになっていなければなりません。

・外野をアップ会場として使用します。原則としてスパイクは着用しません。芝生や整地したグラウンドを荒らすことになります。また、ラインを引いている役員がいたら、優先するように場所を空け、ボールが行かないようにします。

・キャッチボール、トス、バントなどは、ラインから１m程度離れた場所で行います。一般的に２m程度内側で行います。また、両チームで譲り合って半分ずつ使用します。

・球場内はフリー打撃やハーフは禁止されています。トスバッティングまでが原則です。

・試合会場では、試合直前の 2 チームに練習権利があります。第 2 試合以降のチームは、指定されたアップ会場を使用します。場所によってアップ会場がない場合もありますが、大会事務局と確認をとり勝手な場所で行わないことは守りましょう。

・前の試合終了後はすぐにベンチに入れるように待機しています。ただし、前のチームが完全に荷物を出してからベンチに入ります。ベンチへの出入口が１つの場合は、試合終了したチームが荷物を持って通れる通路を確保しながら、ベンチ入口前で待っています。また、入口が２つある場合は、一方は出口として完全に開けておき、次のチームはもう一方から入ります。いずれも場合も、前の試合のチームの荷物が完全になくなったのを確認して入るようにします。

・ファウルグラウンドでノックをした場合は、必ずノック終了後すぐに自チームで整地します。

試合開始挨拶時

・試合開始前の整列では、監督、コーチ、スコアラーはベンチ前に整列し、試合開始前の挨拶を行ったのち、相手チームベンチ前の指導陣に挨拶を再度するのが通例です。本部に向っての挨拶は必要ありません。先攻のチームは 1 番、2 番打者およびベースコーチもヘルメットを着用して整列します。挨拶後、ランナーコーチはすぐにコーチボックスに移動します。

・両チームが同時に「礼」をします。相手が礼をした後、タイミングを遅らせて礼をする行為は絶対にやめましょう。甲子園でもＨ２６選抜からそのように指導されています。

試合中

・審判が選手の交代をベンチに告げる際「ありがとうございます」と声を揃えて挨拶するチームがありますが、やっていけないことではありませんが、一般的に必要ありません。

・球場内では、試合中にキャッチボール（ピッチングを含む）やランニングは一般的に認められていますが、ストレッチや素振りなどは禁止されています。また、試合前中後にかかわらず、グラウンド内に出る時は必ず着帽します。特に認められている場合を除き、ベンチから出る時は防寒着を脱ぐことが原則です。監督も試合開始前後の挨拶時や選手の交代を告げる際も、防寒着（グラウンドコート類）は脱ぎます。

・指導者の中には、いろいろな決めごとや規則など、通常は理解していても、いざ試合となると試合に入り込んでしまい、自チームの選手が多くの違反行為などを見て注意することができない状況になってしまいがちです。互いのことを考え、知っている人や第三者などが適切にアドバイスや実態を指導者に告げることを、悪いことだと考えず励行したいものです。

応援団の管理

・複数の指導者がいる場合は、常に 1 人は応援団の管理を行います。暑いときの熱中症予防や野次への指導、生徒指導的管理などのためです。また、応援用の横断幕を球場内に貼り付けるチームがありますが、球場のネット外側から貼り付けなければなりません。太鼓が一般的に使用されるようになってきましたが、近隣住民やグラウンド状況によっては使用できない場所もありますので、球場責任者に確認してから行ってください。

・指導者は試合のない時に塁審や役員業務などを行うことが多いのですが、自チームの選手管理は確実に行います。日頃から指導することで徹底できます。

・保護者の応援マナーについても、各チームで責任をもってください。ゴミや駐車場所、喫煙などの問題点が多数指摘されています。また、納得のいかない判定などもありますが、各チームも指導者が正規の方法で抗議する形を守るようにします。保護者が騒いで両チームの選手が後味の悪い形にならないよう最大限の努力と事前のお願いをしておきます。

試合終了後

・試合終了後はすぐにベンチをあけます。応援団への感謝の挨拶は構いませんが、次の試合のチームが待っている状況で、本部への挨拶は試合進行の妨げになりますので遠慮します。次の試合がない状況では特に問題にしません。また、試合内容が悪かったなどで、その場でミーティングをするチームもありますが、絶対に行ってはいけない行為です。ベンチを出てから別の場所で行ってください。

・練習試合だけでなく、大会でも対戦相手の監督にアドバイスを求めにいく選手が多いですが、相手チームの状況や勝敗なども考慮しましょう。アドバイスをお願いしたのであれば、事前にアドバイスをお願いしたい点などお話ししておくことが礼儀です。

服装・スタイル

・ユニホームのベルトをしっかりと締めないで使用している選手が多くなりました。腹圧の関係もありますが、試合中にベルトが全て見えるように上着を入れることは徹底指導します。

・帽子のかぶり方についても、つばを上げすぎていると注意を受けることがあります。注意を受けるからよくないのではなく、帽子の必要性（頭の保護、熱中症予防など）からであることをよく理解させるようにします。

・指導者としての着こなしは選手への影響力が大きいということを自覚しましょう。ベルトをしないなどはもってのほか、ユニホームズボンの裾を上げずに、だらしなく着ている姿があります。ロングパンツは禁止されていることでもあります。しっかりと上げてストッキングを、見せましょう。同様に、ユニホーム上着のボタンを外していることはないですか？気がつかずうっかりということもありますが、選手にも許されない行為です。また、監督の靴の色は、「選手と同じ」と規定されています。

・攻守交代の全力疾走は当たり前と考えましょう！

練習試合

・捕手が投球練習の捕手を行う際の防具着用、バットパーソンのヘルメット着用、ノッカーにボールを渡す選手のヘルメット着用など、徹底されているとは言えません。大会だからするのではなく、危険防止の観点から日ごろから励行しましょう。

・予算に余裕のある大会以外（練習試合を含む）では、後攻チームからロジンパックを出すようにし、その一つを両チームで使用するようにしましょう。そして、無くなった場合は、順番に用意するようにしましょう。規則では「一つのロジンを使用する」ことになっています。

式典では

・その大会の権威をしめすものであり、心構えをしっかりともって臨みます。行進の練習をしたり、整列順番などを事前に確認しましょう。

・暑さ対策で最近、「着座」での配慮をしてもらっていますが、本来の姿ではありません。猛暑時に開会式直後に試合がある場合などの配慮として行っている大会もあります。前日開会式や全国大会では、立位のままが当然の姿です。

・挨拶時と、旗の掲揚時以外は着帽でいいのですが、挨拶時は帽子をとりましょう。

その他（追加事項）

・攻守交代の際、走者や打者走者に対して「給水」のため、コップを持って出て行く場合は、ファウルグラウンド（できるだけフェア地域から離れた場所）で給水します。

・攻守交代の際、捕手が走者や打者走者などの場合は、捕手用具装着を複数で手伝います。ベンチの中でなく、ネクストバッターズサークル内で装着するようにします。ただし、ファウルカップの着用はベンチ内の観客から見えないところで行いましょう。

最後に

・指導者が知らないと、選手（チーム）が良くない印象を抱かれる原因にもなります。生徒指導上の問題もあると思いますが、選手らも好きで選んだ野球部（チーム）ですから、指導者の熱意があればいろいろな困難は克服できると信じてがんばりましょう！